

沖 縄	第116号
通 信	
生 物 学 会	2025 年 5 月 8 日

沖縄生物学会第62回大会の開催のお知らせと講演プログラム

沖縄生物学会の第62回大会を下記の要領で開催いたします。今大会は口頭発表11題、ポスター発表18題(高校生1題、一般17題)の発表を予定しております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

沖縄生物学会 第62回大会

会期:2025年5月17日(土)

会場:沖縄大学 本館 同窓会館・玄関ホール

問い合わせ先(大会長:城ヶ原貴通)098-901-7295, okibio62th@gmail.com

大会日程

受 付	8:30～	本館 玄関ホール
一般講演【午前の部】	9:00～10:30	本館 同窓会館
高校生・一般ポスター発表	10:30～12:00	本館 玄関ホール
休 憩(昼食)	12:00～13:00	
総 会	13:00～14:00	本館 同窓会館
休憩	14:00～14:10	
一般講演【午後の部】	14:10～15:25	本館 同窓会館
休憩	15:25～15:40	
公開シンポジウム	15:40～17:40	本館 同窓会館
懇親会	18:30～20:30	台湾料理 福楽 国場店

沖縄生物学会第 62 回大会準備委員会

大会長 城ヶ原貴通

準備委員会委員長 城ヶ原貴通

準備委員会委員 江藤 毅、小林 峻

沖縄生物学会第62回大会

会期:2025 年 5 月 17 日(土)

会場:沖縄大学 本館 同窓会館・玄関ホール

会場案内

場所:沖縄大学

沖縄県那覇市国場 555

沖縄生物学会第62回大会参加費:1,500円(学生1,000円)

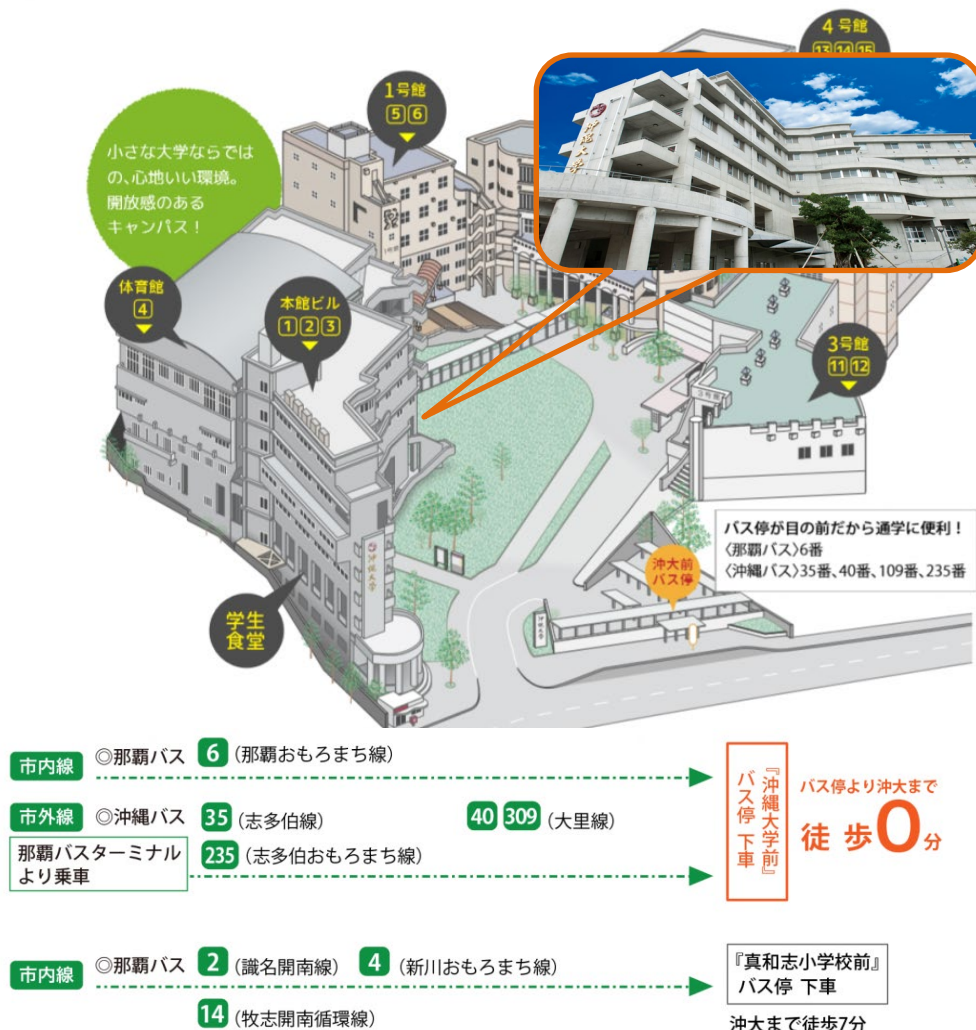
(*高校生以下は参加費免除)

懇親会費 事前:3,500円 当日:4,000円

(学生は共に2,500円)

大会会場:沖縄大学本館同窓会館・玄関ホール

懇親会会場:台湾料理 福楽 国場店(徒歩15分程度・地図は当日お渡しします。)



駐車場はこちらの QR コードよりご確認の上、
長田第一・第二駐車場をご利用ください。



一般講演

【9:00～10:30】 口頭発表【午前の部】

同窓会館

O-01 9:00-9:15

硫酸基をもつ花色色素(フラボノイド)の生理学および薬理学作用の再検討

○直正りこ(琉球大・院・理工)・山崎秀雄(琉球大・理)

O-02 9:15-9:30

西表島における野生復帰個体群を用いたタイワンタイコウチの生活史

○北野忠・額賀ひかり(東海大・教養)・苅部治紀(神奈川県立生命の星・地球博物館)・荒谷邦雄(九州大院・比文)

O-03 9:30-9:45

座津武川上流におけるサワガニ類の河川への出現について

○千木良 芳範(うるま市)

O-04 9:45-10:00

沖縄島沿岸でのネムリブカ(*Triaenodon obesus*)の生息地選択と傾向分析

○園田卓也(琉球大・理工)・中村崇(琉球大・理)

O-05 10:00-10:15

陸上高密度養殖ヤイトハタの成長の不均一性と摂餌量の関係

○安里匡平・磯村尚子(沖縄高専・生物資源)

O-06 10:15-10:30

ハロウエルアマガエルの幼生の表現型可塑性とその発言にかかるコストの検証

○波照間 早希(琉大院理工), 富永 篤(琉大・教育)

【10:30～12:00】 ポスター発表【高校生・一般】 玄関ホール

※ポスター発表のプログラムは6～7ページに記載してあります。

【12:00～13:00】 休憩(昼食)

【13:00～14:00】 総会

同窓会館

【14:00～14:10】 休憩

【14:10～15:25】 口頭発表【午後の部】

同窓会館

O-07 14:10-14:25

骨年輪法によるシロアゴガエルの齡査定の試み

○新垣大地(琉大・院・理工)・富永篤(琉球大・教育)

O-08 14:25-14:40

塩屋湾・平良湾周辺のオキナワトカゲを主としたトカゲ相調査

○仲宗根和哉・辻和希(琉球大・農)・下地博之(琉球大・農)・鶴井香織(琉球大・農)

O-09 14:40-14:55

沖縄島北部におけるタイワンハブの両生爬虫類への影響の検討

○高木亮太郎¹・山川(矢敷)彩子²・戸田守¹(¹ 琉球大・熱生研,² 沖国大・経)

O-10 14:55-15:10

沖縄島固有種ノグチゲラの繁殖個体数の推定と保全の展望

○小高信彦(森林総研)・渡久地豊(工房リュウキュウロビン)・長井隆(沖縄環境科学セ)・
中田勝士(南西環境研)・新里和野(島嶼生物研)・平良成・伊藤麻衣(沖縄県)・有働竜
也・椎野風香(環境省)

O-11 15:10-15:25

ケナガネズミによる大型巣箱での営巣事例と高さによる営巣率の違い

○東哲平(琉大・院・理工)・小林峻(琉大・理)

【15:25～15:40】 休憩

【15:40～17:40】 公開シンポジウム 同窓会館

「沖縄島の中南部の自然の過去・現在・これから」

コンビナー: 富永 篤(琉球大・教育)

沖縄島北部のやんばる地域は国立公園や世界自然遺産に指定ないし登録され、国内外で貴重な自然環境が残る地域として注目されている。一方で、沖縄島中南部の自然についても、そこに生息・生育する生物の研究の進展に伴い、やんばるとは異なる特徴を持つ独特の自然環境が残されていることが明らかとなり、注目されつつある。しかし、大都市の那覇やその周辺都市に近い沖縄島中南部では、これまで細々と残されてきた自然環境が、さまざまな開発により破壊されつつある。また、新たな外来種の侵入によって一部の希少野生動植物が減少するなど、多くの在来生物の地域個体群が絶滅の危機に瀕している。

このシンポジウムでは、そうした沖縄島中南部に残された自然環境に生息・生育する在来生物の状況を識者に紹介していただく。また、ネイチャーポジティブ(自然再興)や30by30 目標、自然共生サイトなどをキーワードに、沖縄奄美自然環境事務所からは生物多様性保全をめぐる昨今の全国的な潮流について紹介していただく。そのうえで、沖縄で生物に関わる私たちが、この沖縄島中南部の自然環境や野生動植物の保全のために何ができるのか、議論し、意見交換して、今後の取り組みにつなげたい。

S01: 沖縄島中南部の洞くつ性小型コウモリの現状

田村常雄(NPO 法人沖縄鍾乳洞協会)

S02: 沖縄中南部の節足動物の特徴

佐々木健志(琉球大・風樹館)

S03: 存亡の危機に立つ“世界でこの島だけのかたつむりたち”

久保弘文(琉球大・風樹館)

S04: 湧水に育まれる溪流型アカボシタツナミソウ — やんばるとは異なる進化の舞台

傳田哲郎(琉球大・理学部)

S05: 沖縄南部に残存する両生類・爬虫類の地域個体群について

城間大輝(琉球大・院理工)・富永篤(琉球大・教育)

S06: 地域の生物多様性増進について

澤志泰正(環境省沖縄奄美自然環境事務所)

総合討論: 沖縄島中南部の自然環境や野生動植物の保全のために我々に何ができるのか?

【18:30～】 懇親会

台湾料理 福楽 国場店

公開シンポジウム終了後、ささやかな懇親会を予定しております。講演時間内に出来なかった討論や会員同士の親睦をより深めるため、是非ご参加下さい。

会場: 台湾料理 福楽 国場店 那覇市国場1185-2コーポ嘉数(098-996-3625)

~~~~~  
ポスター発表演題一覧

【10:30~12:00】ポスター発表【高校生・一般】本館玄関ホール

【高校生】

- KP-01 沖縄県西原町におけるアオミオカタニシ(腹足綱:ヤマタニシ科)の生活史  
○中村心紅(琉大カガク院・沖縄高専)・東江あやか(琉球大・地域連携推進機構)

【一般】

- P-01 コナミキ *Scutellaria guilielmii*(シソ科)の自動自家受粉機構  
○田島結奈(琉球大・院・理工)・傳田哲郎(琉球大・理)
- P-02 西表島におけるカショウクズマメ(マメ科トビカズラ属)の送粉様式  
小林峻・傳田哲郎・伊澤雅子(琉球大・理)
- P-03 沖縄島におけるワニグチモダマ(マメ科)の訪花動物  
○鶴田萌 1・伊澤雅子 2・小林峻 2・傳田哲郎 2(1 琉球大・院・理工, 2 琉球大・理)
- P-04 水生シダ植物アカウキクサ *Azolla pinnata* の根自切機構における活性酸素消去系の不等分布  
○水本翔・山崎秀雄(琉球大・理)
- P-05 暗視野コンデンサーの作成と珪藻殻の超微細構造の観察  
○天田 啓(福工大・生命環境)
- P-06 名護市羽地内海のヒルギダマシ類(*Genus Avicennia*)の駆除と課題 について  
新垣裕治(名桜大・国際観光)
- P-07 沖縄島西海岸のイノーにおけるタコ類の分布  
○真栄城俊(冲国大・経済・地環)・山川(矢敷)彩子(冲国大・経済・地環)
- P-08 塩分濃度の異なる飼育水中での給餌がヤイトハタの成長に及ぼす影響  
○張越(琉大院・理工)・高橋縁充(琉大院・理工)・平塚悠治(琉大・研推)・竹村明洋(琉大・理)
- P-09 毒を持つ外来種の捕食をめぐるカンムリワシの毒耐性と食性の実態  
○戸部有紗(京大・野生)・佐藤悠(京大・野生)・近藤充希(国環研・生物多様性, 鹿児島大・獣医)・大沼学(国環研・生物多様性)・佐藤行人(琉球大・医)・村山美穂(京大・野生)
- P-10 A unique sea turtle congregation at the Shiokawa salt river in Okinawa, Japan  
○Yuka Matsukawa (Grad. Sch. Eng. Sci., Univ. Ryukyus), Jeffrey Jolly (Marine Climate Change Unit, OIST), Timothy Ravasi (Marine Climate Change Unit, OIST), James Davis Reimer (Grad. Sch. Eng. Sci., Univ. Ryukyus/TBRC, Univ. Ryukyus)
- P-11 飼育下のオリオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus* の餌探索行動: 視覚と嗅覚の役

割

○花見銀河(琉球大・院・理工)・中村智映・山内悦子・松野仁胡・島田晴加・吉見裕子・築場未来・金城輝雄・金尾由恵(沖縄こどもの国)・小林峻(琉球大・理)

P-12 環境 DNA を活用したジュゴン調査の可能性

○陣内恒平(工営・中研)・今村史子(工営・技戦)・前原裕(工営・環境)・五十嵐美穂(工営・仙台)・左右田結香(工営・名古屋)・中尾遼平(山口大院・創成)・辻冨月(京大院・情報)・小澤宏之(沖環科セ・総環研)・加藤靖広(工営・環境部)・赤松良久(山口大院・創成))

P-13 ヘアトラップを用いたオキナワトゲネズミの分布域調査及び遺伝的多様性再評価

○渡部大介・金城道男・長嶺隆(どうぶつたちの病院沖縄)・福原亮史(どうぶつたちの病院沖縄)・(株)南西環境研究所)

P-14 沖縄島北部の道路環境における野生動物の日周活動性

○丸田裕介(琉球大・院・農)・鶴井香織(琉球大・農)・辻和希(琉球大・農)

P-15 沖縄島北部におけるケナガネズミの道路利用の時間帯と季節性

○大賀優斗(琉大・院・理工)・菊池隼人(琉大・理)・小林 峻(琉大・理)

P-16 ケナガネズミの移動に対する道路・農地の影響:行動圏からの考察

○菊池隼人(琉大・理)・東 哲平(琉大・理)・大賀優斗(琉大・理)・中谷裕美子(どうぶつたちの病院沖縄)・長嶺 隆(どうぶつたちの病院沖縄)・大内 力(どうぶつたちの病院沖縄)・小林 峻(琉大・理)

P-17 アラモトサワガニの系統地理と分類

○大場一平・磯村尚子(沖縄高専・生物資源)

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会第62回大会公開シンポジウムの案内

\*\*\*\*\*

大会プログラムにもありますように、沖縄生物学会第 62 回大会では公開シンポジウムを行います。このシンポジウムに関しては参加は会員に限りませんので、周囲の方もお問い合わせのうえ是非ご参加ください。

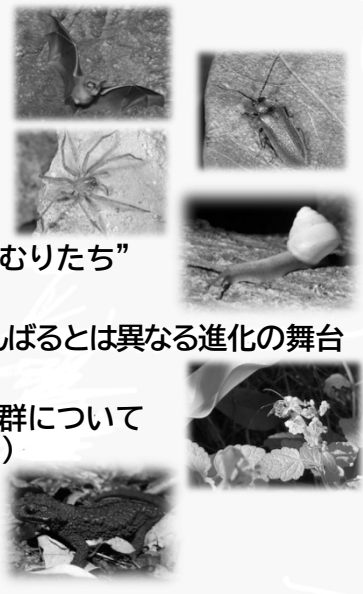
沖縄生物学会 第 6 2 回大会 公開シンポジウム

# 沖縄島中南部の自然 過去・現在・これから

日時：2025 年 5 月 17 日（土）15:40～17:40  
場所：沖縄大学 本キャンパス 本館 同窓会館  
参加費等：事前申込み不要、入場無料 です！



- 15:40 開会挨拶（会長：傳田哲郎）  
趣旨説明 富永篤（琉球大・教育）
- 15:50 S01：沖縄島中南部の洞くつ性小型コウモリの現状  
田村常雄（NPO 法人沖縄鍾乳洞協会）
- 16:05 S02：沖縄中南部の節足動物の特徴  
佐々木健志（琉球大・風樹館）
- 16:20 S03：存亡の危機に立つ“世界でこの島だけのかたつむりたち”  
久保弘文（琉球大・風樹館）
- 16:35 S04：湧水に育まれる溪流型アカボシタツナミソウやんばるとは異なる進化の舞台  
傳田哲郎（琉球大・理学部）
- 16:50 S05：沖縄南部に残存する両生類・爬虫類の地域個体群について  
城間大輝（琉球大・院理工）・富永篤（琉球大・教育）
- 17:05 S06：地域の生物多様性増進について  
澤志泰正（環境省沖縄奄美自然環境事務所）
- 17:20 総合討論  
沖縄島中南部の自然環境や野生動植物の保全のために我々に何ができるのか？



沖縄島北部のやんばる地域は国立公園や世界自然遺産に指定ないし登録され、国内外で貴重な自然環境が残る地域として注目されている。一方で、沖縄島中南部の自然についても、そこに生息・生育する生物の研究の進展に伴い、やんばるとは異なる特徴を持つ独特の自然環境が残されていることが明らかとなり、注目されつつある。しかし、大都市の那覇やその周辺都市に近い沖縄島中南部では、これまで細々と残されてきた自然環境が、さまざまな開発により破壊されつつある。また、新たな外来種の侵入によって一部の希少野生動植物が減少するなど、多くの在来生物の地域個体群が絶滅の危機に瀕している。

このシンポジウムでは、そうした沖縄島中南部に残された自然環境に生息・生育する在来生物の状況を識者に紹介していただく。また、ネイチャーポジティブ（自然再興）や 30by30 目標、自然共生サイトなどをキーワードに、沖縄奄美自然環境事務所からは生物多様性保全をめぐる昨今の全国的な潮流について紹介していただく。そのうえで、沖縄で生物に関わる私たちが、この沖縄島中南部の自然環境や野生動植物の保全のために何ができるのか、議論し、意見交換して、今後の取り組みにつなげたい。

\*\*\*\*\*

## 令和 6 年度 沖縄生物学会 第 2 回評議員会報告

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会評議員会が 2025 年 4 月 21 日(月)19:05 から、琉球大学理学部 528 教室における対面と Zoom を併用したハイブリッド形式で開催されました。参加者は 13 名(幹事含む)、委任 5 名、欠席 2 名でした。

### [報告事項]

#### 1. 第 62 回大会までの流れについて

遠隔での出席者の確認などを行ったのち、山川代表幹事から、第 62 回大会・総会までの流れについて説明がなされました。またそれに関連して、本評議員会での要検討事項の確認がありました。

#### 2. 第 16 回池原貞雄記念賞の授賞候補について

傳田会長より、2024 年度第 16 回池原貞雄記念賞について推薦がなかったため、該当者なしとせざるを得なかったとの説明がありました。次回大会等で池原賞授賞候補者(推薦者)について呼びかけを行う必要があるとの話がありました。評議員も含めて、自薦他薦を問わず、積極的に考えていきたいと思いますとの確認がなされました。

#### 3. 国立自然史博物館設立への動きについて

竹村自然史博物館設立要請委員会委員長より、2025 年度は博物館設立誘致に関するシンポジウムを離島(石垣市を予定)で実施する予定である旨、報告がありました。

#### 4. 会誌(63 号、64 号の状況)について

藤田編集幹事より、2025 年 3 月に 63 号を発行済みである旨報告されました(原著論文 4、資料 7、計 11)。次号 64 号は 5 編について査読または受理の状況で、夏ごろまで原稿募集中であるとのことでした。

#### 5. 学会会計繰越金の有効活用について

傳田会長を中心に近いうちにワーキンググループでミーティングをおこない、その内容を次回評議員会で報告する旨説明がありました。

#### 6. 学会メールアドレスの変更について

平良庶務幹事より、現在のアドレスは迷惑メールが多く管理をしにくいと、新しいアドレスに変更予定である旨、報告がありました。

### [審議事項]

#### 1. 第 62 回大会準備・運営・分担について

城ヶ原大会実行委員長より、第 62 回大会は 2025 年 5 月 17 日(土)に沖縄大学で開催予定であることが報告されました。そのうえで、大会に向けた準備状況、発表演題申込数、プログラム案の概要などについて説明があり、評議員会として確認をしました。また、公開シンポジウムについて、戸田幹事よりフ라이어の提示があり、質問や議論を経た後、実施体制を含む内容が承認されました。詳細は 1~7 ページおよび 8 ページをご覧ください。

#### 2. 学会通信 116 号(本通信)の内容について

戸田庶務幹事により、通信 116 号の内容に関する案の提示がなされました。第 62 回大会での公開シンポジウムが中南部の自然ということで多くの人の来場を促したいことから、シンポジウムのポスターを通信内に含めることが承認されました。

#### 3. 2026 年の第 63 回大会について

2026 年の大会会場と日程について議論がなされました。2026 年 5 月に沖縄キリスト教学院大学で開催する方向で調整することが承認されました。日程については、2025 年秋の評議員会までに決定することとなりました。

\*\*\*\*\*

## 国立自然史博物館誘致の現状報告

\*\*\*\*\*

国立沖縄自然史博物館誘致活動は、現在沖縄県が主体となって取り組まれています。この活動の成果として、県民の皆様は「国立沖縄自然史博物館」のことをご存じの方が徐々に増えています。2025 年度には、国立沖縄自然史博物館誘致沖縄シンポジウムの開催（石垣市）、展示会の開催（沖縄本島中南部と北部及び離島、そして子供向けセミナー開催、などの活動が実施される予定です。会員の皆様におかれましては、今年度予定されている活動に積極的に参加していただき、国立沖縄自然史博物館誘致活動を盛り上げていただけますようご協力をお願いします。

通信 115 号までにご紹介しきれなかった活動の一部をご紹介します。

(1)「国立沖縄自然史博物館誘致沖縄シンポジウム」(2024 年 11 月 10 日に沖縄市民会館大ホールで開催) YouTube 動画(2 時間 38 分 48 秒)2024 年 12 月 4 日公開

<https://www.youtube.com/watch?v=yUCC9pf1gXw&t=2s>



(2)国立自然史博物館について(チラシ)  
自然史科学を世界に発信する国立自然史博物館の重要性を概説しているチラシです。国立自然史博物館をなぜ沖縄に作る必要があるのかが説明されています。



\*\*\*\*\*

## 学会メールアドレス・原稿投稿用メールアドレスのお知らせ

\*\*\*\*\*

これまで学会のメールアドレスは okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp を使用していましたが、2025 年 6 月以降、以下のアドレスに変更になります。間違いのないようお願いいたします。なお、沖縄生物学会誌への原稿の投稿先メールアドレスに変更はありませんので、こちらと混同されませんようご注意ください。

沖縄生物学会メールアドレス

旧アドレス) okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp (2025 年 5 月まで)

旧アドレス) okibio-info@okibio.jp (2025 年 6 月～)

沖縄生物学会誌原稿投稿用アドレス (変更なし)

journal@okibio.jp (編集幹事: 藤田喜久宛て)

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会 役員一覧表

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです（2024年12月時点）。任期は2年間で、2026年5月の総会までです。

会長 傳田 哲郎（琉球大学）  
副会長 佐々木 健志（琉球大学） 桃原 健次（沖縄生物教育研究会）

監査員 菊川 章（沖縄県立博物館・美術館） 比嘉 俊（琉球大学）  
今井 秀行（琉球大学）

### 評議員

大学関係 坂下 光洋（名桜大学） 照屋 建太（沖縄キリスト教学院大学）  
研究機関 宮本 真琴（（一財）沖縄県環境科学センター）  
青柳 克（（株）イーエーシー）  
伊澤 雅子（北九州市立自然史・歴史博物館）  
行政機関 山本 以智人（環境省）  
高校関係 知念 美香（小禄高校） 島袋 陽（沖縄県立総合教育センター）  
新城 憲一（美来工科高校）  
中学校関係 平良 正哉（佐敷中学校）  
その他 当山 昌直

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 佐々木 健志（琉球大学）

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋（琉球大学）

庶務幹事 山川（矢敷） 彩子（代表幹事：沖縄国際大学）  
戸田 守（琉球大学） 竹村 明洋（琉球大学）  
城ヶ原 貴通（沖縄大学） 平良 渉（琉球大学）  
斎藤 由紀子（琉球大学）  
会計幹事 小林 峻（琉球大学）  
編集幹事 藤田 喜久（沖縄県立芸術大学） 江藤 毅（琉球大学）  
編集委員 佐々木 健志（琉球大学） 富永 篤（琉球大学）  
前田 健（沖縄科学技術大学院大学） 渡邊 謙太（琉球工専）

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。2025年6月以降は、学会の電子メールアドレスが [okibio-info@okibio.jp](mailto:okibio-info@okibio.jp) に変更になりますのでご注意ください（本通信10ページ）。

\*\*\*\*\*

## 沖縄県生物学会 賛助会員

\*\*\*\*\*

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行  
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石正明  
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀  
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

\*\*\*\*\*

## 原稿募集のお知らせ

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿を準備いただき(原則として電子ファイルでの投稿のみ受け付けます)、投稿専用アドレス(journal@okibio.jp)までお送りください。

沖縄生物学会誌は、毎年1号、毎年3月末に発行される予定となっています。したがって、毎年12月末までに受理された原稿について、翌年3月に発行される号に掲載することになっております(受理原稿の編集・校正・印刷業者との調整など、発刊に向けた諸作業の時間が必要なためです)。沖縄生物学会誌に投稿された論文原稿の審査(査読)は、通常2ヶ月～3ヶ月程度要します(査読結果次第では半年～1年以上かかる場合もあります)。これらの発行スケジュールをご理解の上、十分な時間的余裕を持って、ご投稿をお願い致します。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久(journal@okibio.jp)までお寄せ下さい。

原稿送付先：journal@okibio.jp (沖縄生物学会誌 編集幹事)

## 沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地  
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内  
生物系事務室 TEL：(098) 895-8577

FAX：(098)895-8576, okibio-info@okibio.jp

振替口座(郵便)：02030-8-30433 沖縄生物学会